

2009/12/8

柏の景気情報（平成21年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年11月分）

○ 調査期間 : 平成21年11月18日 ~ 11月24日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	75	70.1%
建設	19	15	78.9%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年11月の調査結果のポイント】

◀業況DIが3か月連続で下降 全国を若干下回る▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.6(前月水準▲57.1)となり、マイナス幅が▲5.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲66.6(同▲71.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲75.0(同▲58.8)、サービス業▲35.7(同▲31.2)、卸小売業▲66.6(同▲63.3)である。

【建設業】では、「年末は繁忙期となるが、外注も多くなるので業況好転とはいえない。安定した軸づくりが急務です」(板金・金物工事業)、「賞与時期ですが、資金繰りに頭を悩ませています」(管工事業)、「年末に向けての売上はわずかに増加しているが、売上金回収面では手形が増えた。返済猶予は必要ないが、運転資金の貸出を適正にやってほしい」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「景況が底を脱した感はあるが、まだまだ低水準であり、好転するには時間がかかりそう」(その他の鉄鋼業)、「モロトリアム法案は複数の借入れがある場合は無意味だと思う。政府保証枠を拡大して継続した融資を受けられた方が有効である」(その他の金属製品製造業)、「引き続き建築基準法改正による影響が大きい」(一般産業用機械設備製造業)、「景気低迷が続いている。ユーザー元の設備導入はまだ聞こえてこず、厳しい状況にある。関係業者からは、自動車業界がエコカー効果で持ち直しつつある中、関連パーツ事業で仕事が回りだしたようだ」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「売上の回復が見込みない中、大幅な経費削減を断行しており、臨時採用を原則ゼロにするなど、地域経済にも影響のある施策を実施せねばならない状況です」(百貨店)、「昨年10月に新館が開業し、11月も開業景気の反動が見られたことから、月初より入店客数・売上ともに低調な出足となった。4月からクリスマスフェアを開催し、イルミネーションなどで飾り付け、ムードを盛り上げた。また、衣料品のフェアを開催し実売次期の喚起を図ったものの、重衣料や靴などの動きは鈍く苦戦。今後もイベント告知を強化し売上に繋げていく」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊宴会とも東葛地区の企業が重要な顧客となっており利用減が続いている。忘新年会の受注も芳しくない」(ホテル)、「不景気のなか、忘年会新年会等宴会の利用動向が気になる」(公衆浴場業)のコメントがあった。

◎売上減少

各業種から、「柏地区の景気の状態は全国と異なることなく、個人消費が低調です」(百貨店)、「前月に引き続き、潤沢な入荷状況から、青果物単価安による売上減少、全体的に1割以上の売上減少であります」(食料・飲料卸売業)、「店舗によるが、飲食関係で全体的に20%ダウンとの情報あり。新学期商戦に入るが、予約割引等のサービスでやっと昨年並み。分割払い等の相談もあり、かなり厳しくなっている。売り上げ目標が達成できても、利益はダウンの見込み」(その他の飲食料品小売業)、「売上不振が続いている。秋口からの落ち込みがきつい。物販飲食を問わず、前年数字を取れていない」(その他の各種商品小売業)などの声が多く上がっていた。

◎先行き不透明

各業種から、「なかなか回復の兆しは見えません」(一般土木建築工事業)、「先行きの生活や政治の不安からくる消費の減少が悪化の原因だと思う」(食料・飲料卸売業)、「最近の社会情報では物価がさらに下がり、デフレと不況の連鎖から、デフレスパイラルが懸念されるとの報道もされており、消費減退が進むのではと、この先の不透明感が増すことも心配しています」(食料・飲料卸売業)などのコメントがあった。

◎客単価減少

各業種から、「入店客数減、購買単価減とダブルパンチ。買い回促進を目指すも景況悪化が追い打ちをかける」(百貨店)、「例年に比べ客単価と客数が低迷したので相対売上は低かった」(食堂・レストラン)、「対前年で客数は変わらず、客単価減少。その結果売上は直近4週間で見ると、対前年96%。年末年始に向けてギフト等の取組みを強化しすこしでも取り返したい」(その他の各種商品小売業)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲ 53.9	▲ 53.3	▲ 47.0	▲ 64.5	▲ 38.4
7月	▲ 61.6	▲ 64.7	▲ 62.5	▲ 62.9	▲ 53.8
8月	▲ 53.9	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 62.0	▲ 40.0
9月	▲ 56.0	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 62.0	▲ 42.8
10月	▲ 57.1	▲ 71.4	▲ 58.8	▲ 63.3	▲ 31.2
11月	▲ 62.6	▲ 66.6	▲ 75.0	▲ 66.6	▲ 35.7
見通し	▲ 36.0	▲ 46.6	▲ 31.2	▲ 36.6	▲ 28.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.6(前月水準▲57.1)となり、マイナス幅が▲5.5ポイント拡大した。

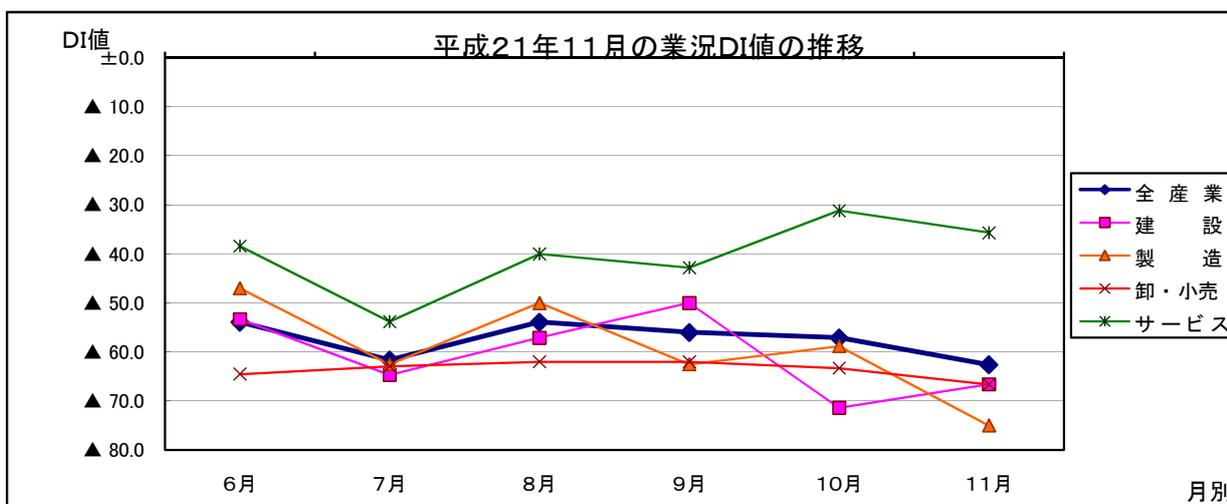
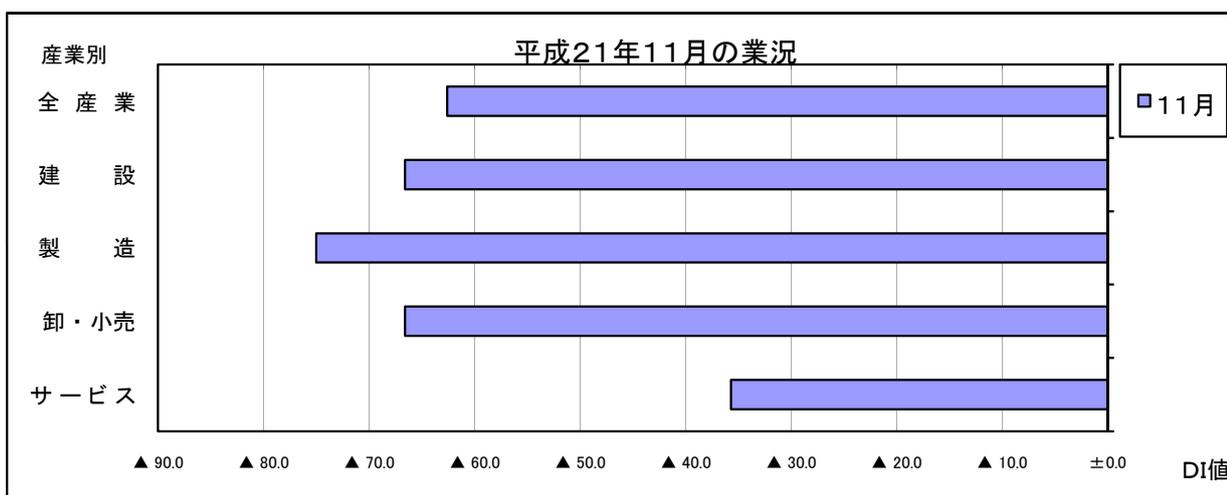
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲66.6(同▲71.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲75.0(同▲58.8)、サービス業▲35.7(同▲31.2)、卸小売業▲66.6(同▲63.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.0(前月水準▲35.0)となり、マイナス幅が▲1.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲57.1)、卸小売業▲36.6(同▲43.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲12.5)、製造業▲31.2(同▲23.5)である。

平成21年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲53.9	▲61.6	▲53.9	▲56.0	▲57.1	▲62.6	▲36.0(▲35.0)
建設	▲53.3	▲64.7	▲57.1	▲50.0	▲71.4	▲66.6	▲46.6(▲57.1)
製造	▲47.0	▲62.5	▲50.0	▲62.5	▲58.8	▲75.0	▲31.2(▲23.5)
卸・小売	▲64.5	▲62.9	▲62.0	▲62.0	▲63.3	▲66.6	▲36.6(▲43.3)
サービス	▲38.4	▲53.8	▲40.0	▲42.8	▲31.2	▲35.7	▲28.5(▲12.5)



【平成21年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.0(前月水準▲58.4)となり、マイナス幅が▲5.6ポイント拡大した。

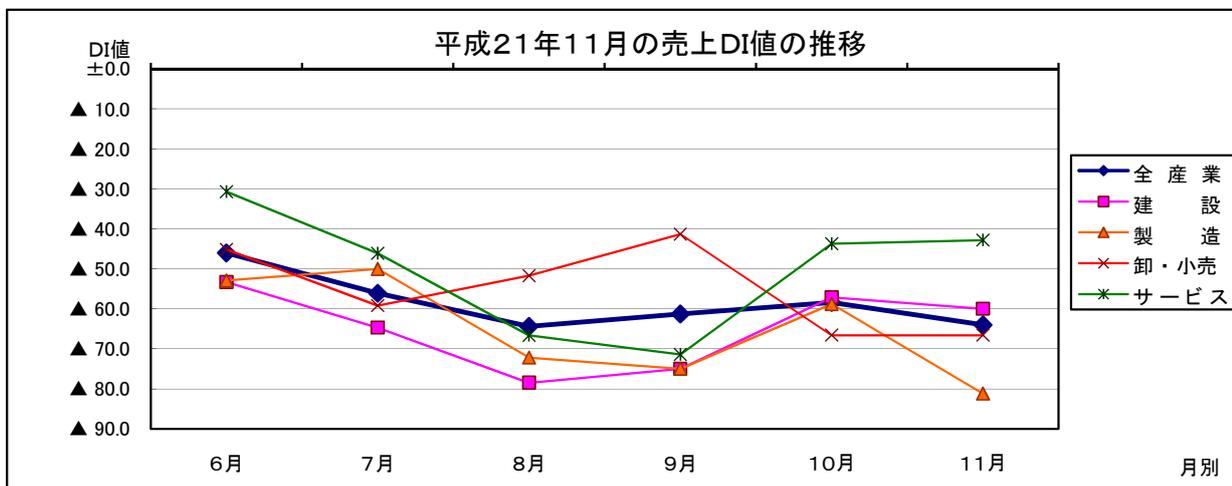
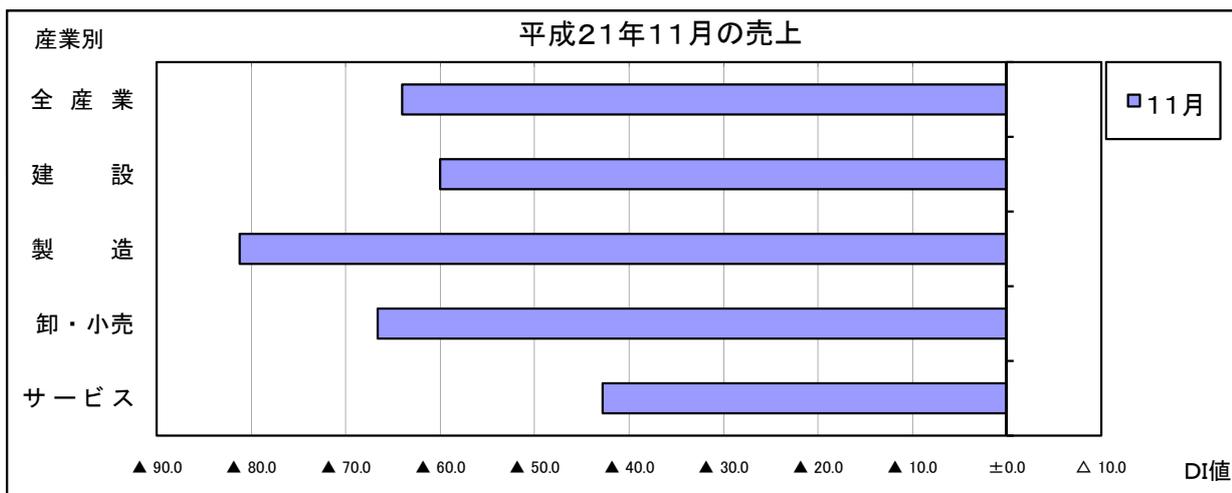
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲42.8(同▲43.7)である。変わらない業種は、卸小売業▲66.6(同▲66.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲81.2(同▲58.8)、建設業▲60.0(同▲57.1)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲22.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲37.3(前月水準▲25.9)となり、マイナス幅が▲11.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲60.0(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲18.7)、卸小売業▲36.6(同▲20.0)、製造業▲12.5(同▲11.7)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲24.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲46.0	▲56.1	▲64.4	▲61.3	▲58.4	▲64.0	▲37.3(▲25.9)
建設	▲53.3	▲64.7	▲78.5	▲75.0	▲57.1	▲60.0	▲60.0(▲64.2)
製造	▲52.9	▲50.0	▲72.2	▲75.0	▲58.8	▲81.2	▲12.5(▲11.7)
卸・小売	▲45.1	▲59.2	▲51.7	▲41.3	▲66.6	▲66.6	▲36.6(▲20.0)
サービス	▲30.7	▲46.1	▲66.6	▲71.4	▲43.7	▲42.8	▲42.8(▲18.7)



【平成21年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲57.3(前月水準▲51.9)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大した。

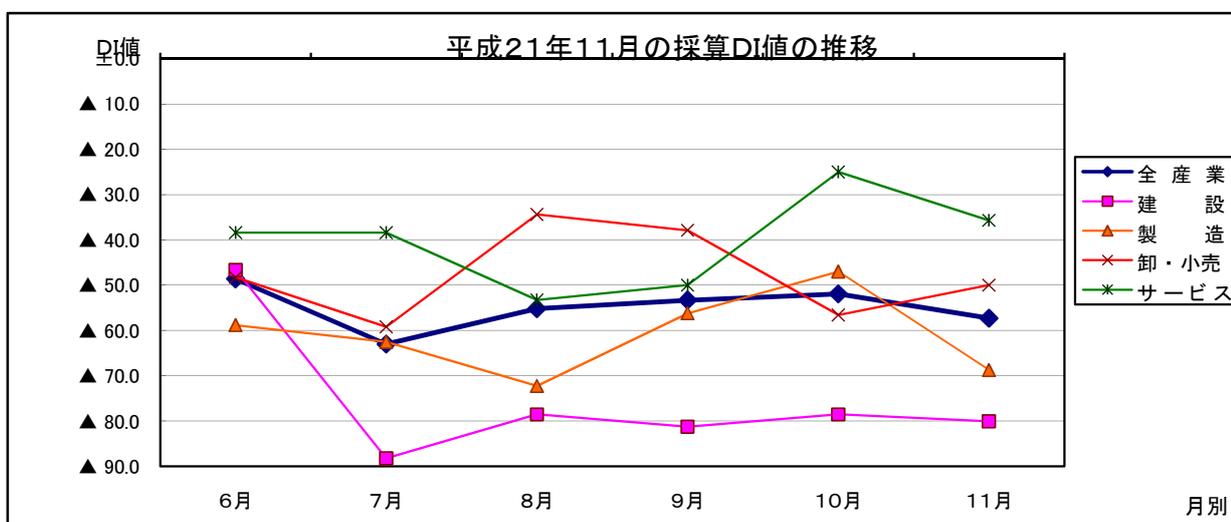
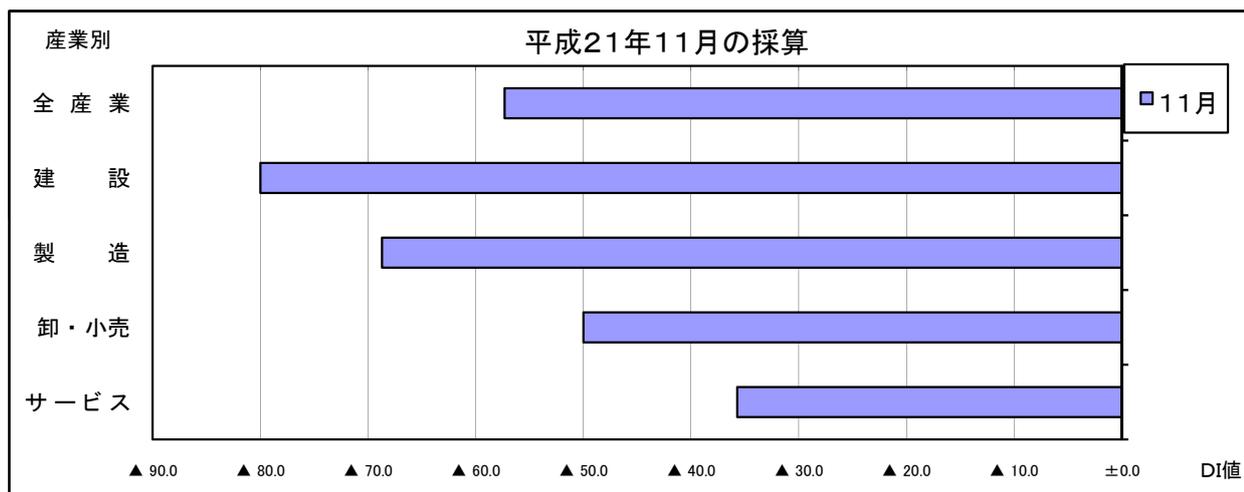
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲50.0(同▲56.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲68.7(同▲47.0)、サービス業▲35.7(同▲25.0)、建設業▲80.0(同▲78.5)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲21.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲37.3(前月水準▲35.0)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲71.4)、製造業▲12.5(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲25.0)、卸小売業▲36.6(同▲30.0)である。

平成21年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 11月～2月(11月～1月)
全産業	▲48.6	▲63.0	▲55.2	▲53.3	▲51.9	▲57.3	▲37.3(▲35.0)
建設	▲46.6	▲88.2	▲78.5	▲81.2	▲78.5	▲80.0	▲60.0(▲71.4)
製造	▲58.8	▲62.5	▲72.2	▲56.2	▲47.0	▲68.7	▲12.5(▲23.5)
卸・小売	▲48.3	▲59.2	▲34.4	▲37.9	▲56.6	▲50.0	▲36.6(▲30.0)
サービス	▲38.4	▲38.4	▲53.3	▲50.0	▲25.0	▲35.7	▲42.8(▲25.0)



【平成21年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.0(前月水準▲3.8)となり、マイナス幅が▲0.2ポイント拡大した。

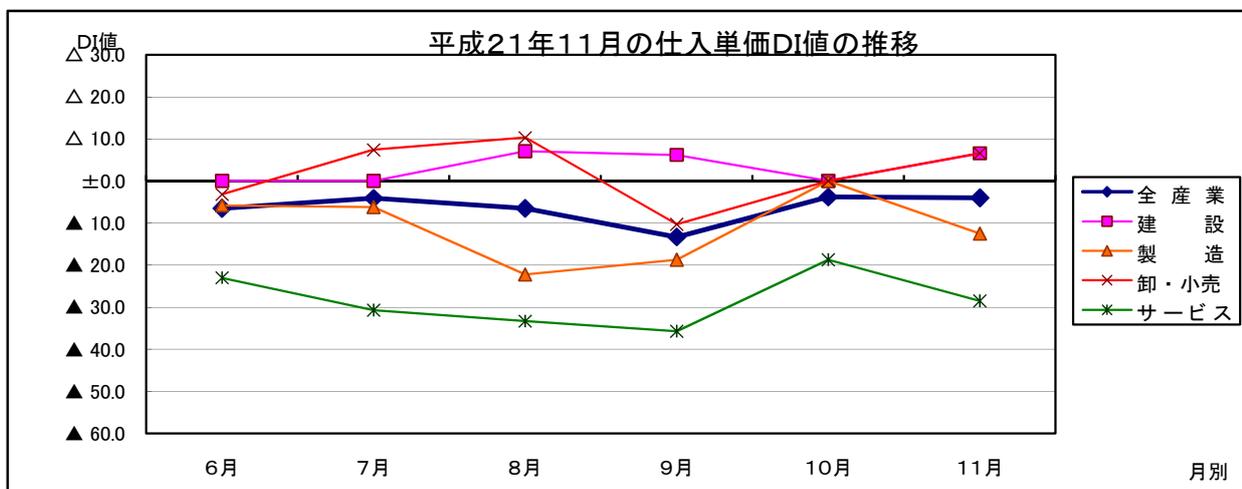
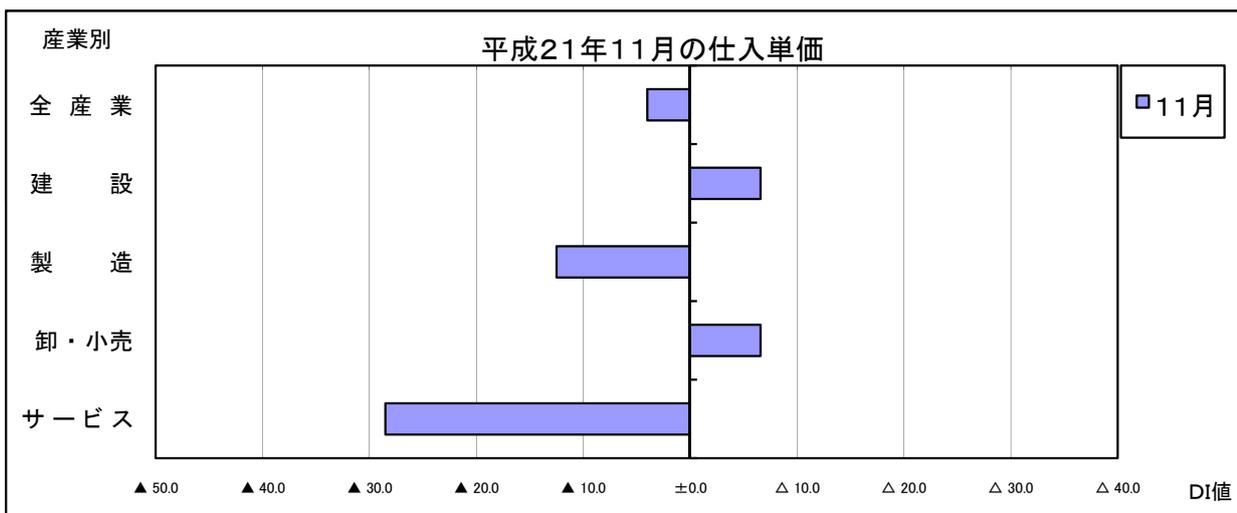
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△6.6(同±0.0)、卸小売業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同±0.0)、サービス業▲28.5(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.0(前月水準▲15.5)となり、マイナス幅が△3.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△13.3(同▲14.2)であり、△27.5ポイント大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は卸小売業▲10.0(同▲13.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6.2(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲50.0(同▲43.7)である。

平成21年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲6.5	▲4.1	▲6.5	▲13.3	▲3.8	▲4.0	▲12.0(▲15.5)
建設	±0.0	±0.0	△7.1	△6.2	±0.0	△6.6	△13.3(▲14.2)
製造	▲5.8	▲6.2	▲22.2	▲18.7	±0.0	▲12.5	▲6.2(△5.8)
卸・小売	▲3.2	△7.4	△10.3	▲10.3	±0.0	△6.6	▲10.0(▲13.3)
サービス	▲23.0	▲30.7	▲33.3	▲35.7	▲18.7	▲28.5	▲50.0(▲43.7)



【平成21年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.6(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が△6.2ポイント縮小した。

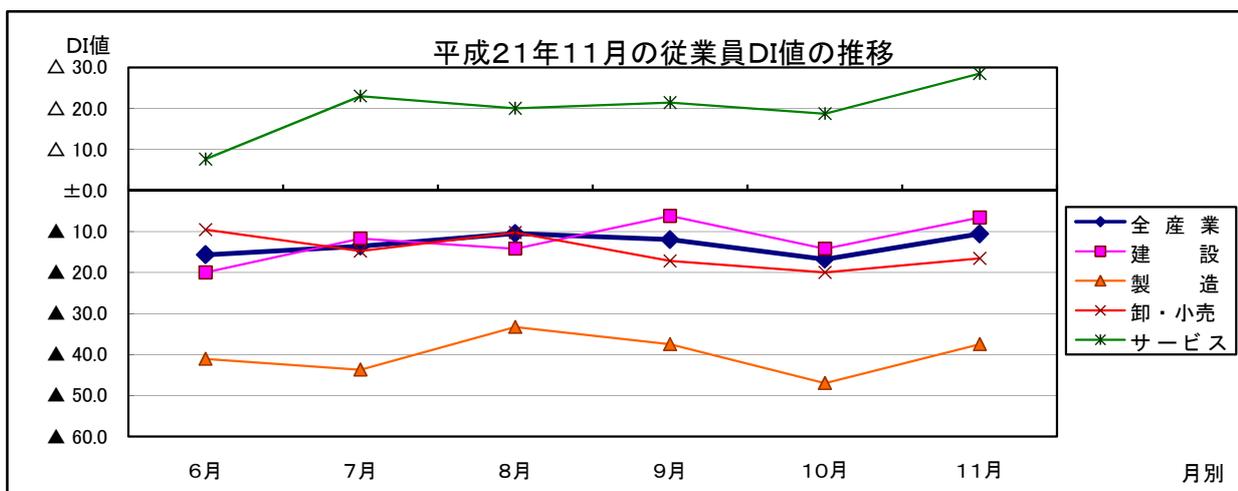
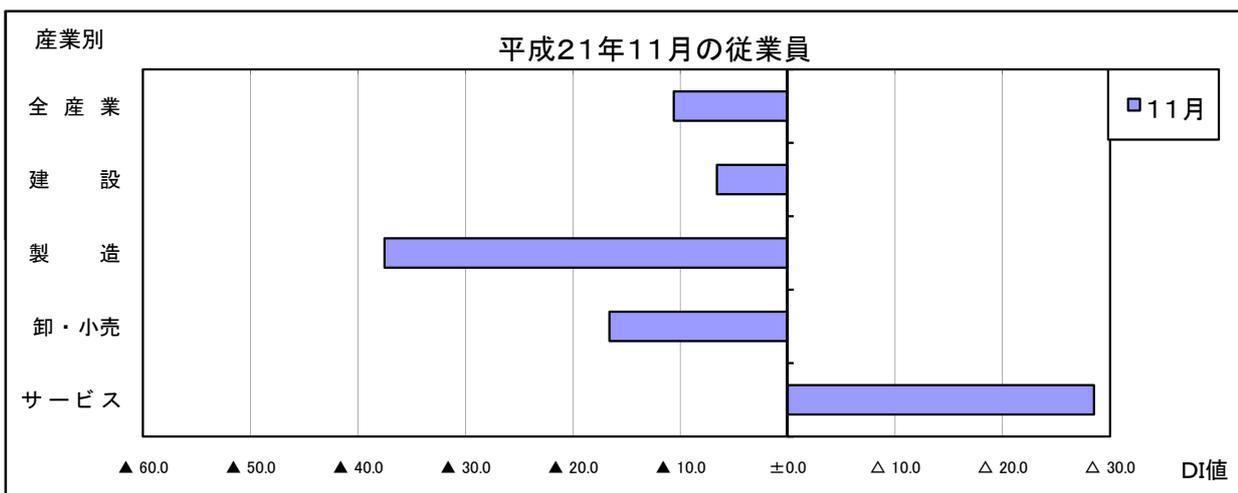
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△28.5(同△18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲47.0)、建設業▲6.6(同▲14.2)、卸小売業▲16.6(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.6(前月水準▲5.1)となり、マイナス幅が▲5.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、卸小売業▲6.6(同▲6.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△14.2(同△31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲14.2)、製造業▲31.2(同▲29.4)である。

平成21年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 15.7	▲ 13.6	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 16.8	▲ 10.6	▲ 10.6 (▲ 5.1)
建設	▲ 20.0	▲ 11.7	▲ 14.2	▲ 6.2	▲ 14.2	▲ 6.6	▲ 20.0 (▲ 14.2)
製造	▲ 41.1	▲ 43.7	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 47.0	▲ 37.5	▲ 31.2 (▲ 29.4)
卸・小売	▲ 9.6	▲ 14.8	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 20.0	▲ 16.6	▲ 6.6 (▲ 6.6)
サービス	△ 7.6	△ 23.0	△ 20.0	△ 21.4	△ 18.7	△ 28.5	△ 14.2 (△ 31.2)



【平成21年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.3(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が▲0.8ポイント拡大した。

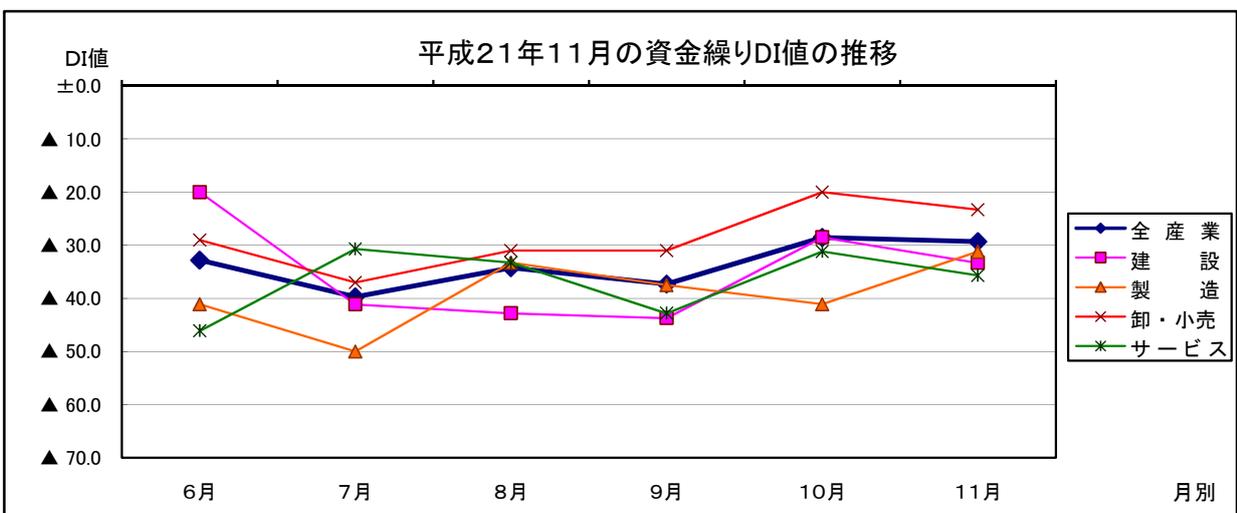
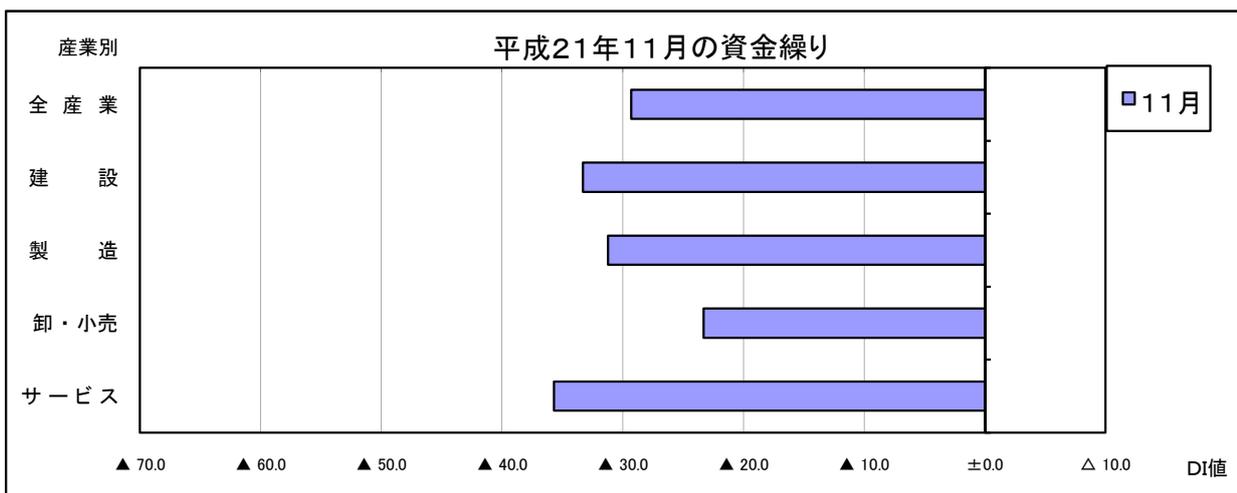
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲31.2(同▲41.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲28.5)、サービス業▲35.7(同▲31.2)、卸小売業▲23.3(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.6(前月水準▲22.0)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13.3(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲35.7)、サービス業▲21.4(同▲18.7)、製造業▲25.0(同▲23.5)である。

平成21年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月(11月～1月)
全産業	▲ 32.8	▲ 39.7	▲ 34.2	▲ 37.3	▲ 28.5	▲ 29.3	▲ 22.6 (▲ 22.0)
建設	▲ 20.0	▲ 41.1	▲ 42.8	▲ 43.7	▲ 28.5	▲ 33.3	▲ 40.0 (▲ 35.7)
製造	▲ 41.1	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 41.1	▲ 31.2	▲ 25.0 (▲ 23.5)
卸・小売	▲ 29.0	▲ 37.0	▲ 31.0	▲ 31.0	▲ 20.0	▲ 23.3	▲ 13.3 (▲ 16.6)
サービス	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 33.3	▲ 42.8	▲ 31.2	▲ 35.7	▲ 21.4 (▲ 18.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 64.0	▲ 37.3	▲ 57.3	▲ 37.3	▲ 4.0	▲ 12.0	▲ 10.6	▲ 10.6
建設	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 60.0	△ 6.6	△ 13.3	▲ 6.6	▲ 20.0
製造	▲ 81.2	▲ 12.5	▲ 68.7	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 37.5	▲ 31.2
卸・小売	▲ 66.6	▲ 36.6	▲ 50.0	▲ 36.6	△ 6.6	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 6.6
サービス	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 42.8	▲ 28.5	▲ 50.0	△ 28.5	△ 14.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 62.6	▲ 36.0	▲ 29.3	▲ 22.6
建設	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 33.3	▲ 40.0
製造	▲ 75.0	▲ 31.2	▲ 31.2	▲ 25.0
卸・小売	▲ 66.6	▲ 36.6	▲ 23.3	▲ 13.3
サービス	▲ 35.7	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 21.4

【平成21年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	なかなか回復の兆しは見えません 年末は繁忙期となるが、外注も多くなるので業況好転とはいえない。安定した軸づくりが急務です。	先行き不透明 年末繁忙期 外注増加	一般土木建築工事業 板金・金物工事業
	賞与時期ですが、資金繰りに頭を悩ませています	賞与 資金繰り困難	管工事業(さく井を除く)
製造	年末に向けての売上はわずかに増加しているが、売上金回収面では手形が増えた。返済猶予は必要ないが、運転資金の貸出を適正にやってほしい。	売上微増 手形増加 運転資金	電気工事業
	景況が底を脱した感はあるが、まだまだ低水準であり、好転するには時間がかかりそう。	業況低水準	その他の鉄鋼業
	モトリアム法案は複数の借入れがある場合は無意味だと思う。政府保証枠を拡大して継続した融資を受けられた方が有効である。	モトリアム法案 政府保証枠拡大	その他の金属製品製造業
	引き続き建築基準法改正による影響が大きい	建築基準法改正	一般産業用機械設備製造業
卸小売	景気低迷が続いている。ユーザー元の設備導入はまだ聞こえてこず、厳しい状況にある。関係業者からは、自動車業界がエコカー効果で持ち直しつつある中、関連パーツ事業で仕事が回りだしたようだ。	景気低迷 設備投資 エコカー減税	その他の機械・同部分品製造業
	色々と準備してきたことがようやく来月くらいから成果につながってきそう 先行きの生活や政治の不安からくる消費の減少が悪化の原因だと思う。	先行き不安 政治不安 消費の減少	生コンクリート製造業 食料・飲料卸売業
	柏地区の景気の状況は全国と異なることなく、個人消費が低調です。柏駅周辺の大型商業施設はいずれも入店客数の減、レジ客数(お買い上げ)の減、平均単価の減と言う状態で、消費者の財布のひもの固さを物語っています。冬のボーナスが軒並み大幅に減少するなか、この傾向は続くと思われます。当社としては、売上の回復が見込みない中、大幅な経費削減を断行しており、臨時採用を原則ゼロにするなど、地域経済にも影響のある施策を実施せねばならない状況です。	個人消費低調 客単価減少 経費節減 地域経済への影響	百貨店
	入店客数減、購買単価減とダブルパンチ。買い回促進を目指すも景況悪化が追い打ちをかける。	客数減少 客単価減少	百貨店
	前月に引き続き、潤沢な入荷状況から、青果物単価安による売上減少、全体的に1割以上の売上減少であります。最近の社会情報では物価がさらに下がり、デフレと不況の連鎖から、デフレスパイラルが懸念されるとの報道もされており、消費減退が進むのではと、この先の不透明感が増すことも心配しています。景気対策はみずから行動し、安泰を図ることがカギと心掛け、日々の販売に創意工夫をすべく努力しています。	青果物単価安 売上減少 デフレスパイラル 消費の減少 先行き不透明	食料・飲料卸売業
	対前年で客数は変わらず、客単価減少。その結果売上は直近4週間で見ると、対前年96%。年末年始に向けてギフト等の取組みを強化しすこでも取り返したい。	客単価減少 年末商戦	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	店舗によるが、飲食関係で全体的に20%ダウンとの情報あり。新学期商戦に入るが、予約割引等のサービスでやっと昨年並み。分割払い等の相談もあり、かなり厳しくなっている。売り上げ目標が達成できても、利益はダウンの見込み。	飲食関係売上低下 売上減少 分割払い 新学期商戦 利益減少	その他の飲食料品小売業
	売上不振が続いている。秋口からの落ち込みがきつい。物販飲食を問わず、前年数字を取れていない。	売上不振 対前年比減少	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	昨年10月に新館が開業し、11月も開業景気の反動が見られたことから、月初より入店客数・売上ともに低調な出足となった。4月からクリスマスフェアを開催し、イルミネーションなどで飾り付け、ムードを盛り上げた。また、衣料品のフェアを開催し実売次期の喚起を図ったものの、重衣料や靴などの動きは鈍く苦戦。今後もイベント告知を強化し売上に繋げていく。	客数減少 売上減少 クリスマスフェア 冬物商戦苦戦 イベント強化	各種商品小売業

【平成21年11月の業種別業界内トピックス】

サービス	例年に比べ客単価と客数が低迷したので相対売上は低かった。	客単価減少 客数減少	食堂・レストラン
	宿泊宴会とも東葛地区の企業が重要な顧客となっており利用減が続いている。忘新年会の受注も芳しくない。	宿泊宴会減少 忘・新年会不調	ホテル
	不景気のなか、忘年会新年会等宴会の利用動向が気になる。	忘・新年会	公衆浴場業

◎売上減少

- ・ 柏地区の景気の状態は全国と異なることなく、個人消費が低調です。百貨店
- ・ 前月に引き続き、潤沢な入荷状況から、青果物単価安による売上減少、全体的に1割以上の売上減少であります。食料・飲料卸売業
- ・ 店舗によるが、飲食関係で全体的に20%ダウンとの情報あり。新学期商戦に入るが、予約割引等のサービスでやっと昨年並み。分割払い等の相談もあり、かなり厳しくなっている。売り上げ目標が達成できても、利益はダウンの見込み。その他の飲食料品小売業
- ・ 売上不振が続いている。秋口からの落ち込みがきつい。物販飲食を問わず、前年数字を取れていない。その他の各種商品小売業

◎先行き不透明

- ・ なかなか回復の兆しは見えません 一般土木建築工事業
- ・ 先行きの生活や政治の不安からくる消費の減少が悪化の原因だと思う。食料・飲料卸売業
- ・ 最近の社会情報では物価がさらに下がり、デフレと不況の連鎖から、デフレスパイラルが懸念されるとの報道もされており、消費減退が進むのではと、この先の不透明感が増すことも心配しています 食料・飲料卸売業

◎客単価減少

- ・ 入店客数減、購買単価減とダブルパンチ。買い回促進を目指すも景況悪化が追い打ちをかける。百貨店
- ・ 例年に比べ客単価と客数が低迷したので相対売上は低かった。食堂・レストラン
- ・ 対前年で客数は変わらず、客単価減少。その結果売上は直近4週間で見ると、対前年96%。年末年始に向けてギフト等の取組みを強化しすこしでも取り返したい。その他の各種商品小売業

平成21年11月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲62.6に対し、「CCI-LOBO」が▲60.0で、柏の方がマイナス幅が2.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業・製造業は、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.0に対し、「CCI-LOBO」が▲59.8で、柏の方がマイナス幅が4.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲57.3に対し、「CCI-LOBO」が▲57.3で、ポイントは同数値。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.0に対し、「CCI-LOBO」が▲4.4で、柏の方がマイナス幅が0.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.6に対し、「CCI-LOBO」が▲19.2で、柏の方がマイナス幅が8.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.3に対し、「CCI-LOBO」が▲39.3で、柏の方がマイナス幅が10.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。

平成21年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 62.6	 66.6	 75.0	 66.6	 35.7
CCI LOBO	 60.0	 55.5	 60.2	 64.3	 54.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 64.0	 60.0	 81.2	 66.6	 42.8
CCI LOBO	 59.8	 54.5	 58.8	 66.0	 54.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 57.3	 80.0	 68.7	 50.0	 35.7
CCI LOBO	 57.3	 54.5	 57.0	 62.4	 52.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.0	 6.6	 12.5	 6.6	 28.5
CCI LOBO	 4.4	 14.1	 2.4	 1.9	 10.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.6	 6.6	 37.5	 16.6	 28.5
CCI LOBO	 19.2	 27.4	 29.6	 13.2	 10.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 29.3	 33.3	 31.2	 23.3	 35.7
CCI LOBO	 39.3	 46.0	 44.1	 36.3	 35.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCIBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成21年11月16日～20日
 調査対象：全国の407商工会議所が2623業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、低水準の横ばい状態で推移し、停滞感が強まる

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、60.0と、前月に比べ+0.6ポイントと、前月とほぼ同水準で推移した。業況は、一部に持ち直しの動きがみられるが、全体としては緩慢で、低水準の横ばい状態のまま停滞感が強まっている。

経済対策の効果などから環境対応車や薄型テレビの販売は持ち直しているが、雇用・所得情勢の悪化による個人消費の減退や販売単価の低下、競争激化による低価格受注などにより売上の減少が続いており、企業の収益状況はさらに厳しさを増している。

先行きについては、50.9と、前月に比べ、1.0ポイントと、マイナス幅が拡大した。3カ月連続のマイナス幅の拡大で、先行きに対する不安が広がっている。ボーナスや給与の減額、雇用不安に伴う個人消費、住宅建設の減退、企業収益の落ち込みによる設備投資の減少、公共工事の前倒し発注に伴う年度後半の工事量減少など、先行きの不透明感や「底意を懸念する声」がかなり強い。また、売上見通しがたえず、年

末・年度末の資金繰りに不安を持つ中小企業が增多している。

【建設業】「工事の執行が秋に集中し受注が増加。一時的に人と機械等のやりくりが苦労している」(一般事業)、「工事量の減少等により、技術者は残すが、重機は処分し、作業員は解雇せざるを得ない」(一般事業)、「民間・公共工事ともに仕事がなく、来年度の見通しがたない」(土木事業)

【製造業】「仕事は確保しているものの収益性が低いものが多い」(農産用機械製造業)、「従業員を遊ばせないため、赤字覚悟で受注している。中小企業金融円滑化法案については一時的に返済猶予されてもその後の経営が不安」(金属加工機械製造業)、「仕入単価の低下や、受注の底打ち感はあるが、生産水準は低いままで苦戦」(他の輸送用機械製造業)

【卸売業】「野菜類が豊作のため昨年より仕入れ単価が安くなった」(農畜産水産物卸売業)、「仕入価格は小幅ながら上昇。一方、販売価格は下落し、採算が悪化している」(化学製品卸売業)、「取引先の大規模な店はインターネット販売が好調で、納入数量は増加しているが取引条件は厳しさを増している」(各種商品卸売業)

【小売業】「近隣のスーパーやディスカウント店が撤退し、来

客数が増加、食品の売上が増えた」(百貨店)、「エコポイント制度の効果により、テレビの売上が好調。制度延長による今後の売上増を期待している」(商店街)、「取扱商品が安価であるため、販売数量は確保したが売上高は減少」(その他小売業)

【サービス業】「忘年会の予約が少なく先行きを懸念している」(食堂・レストラン)、「円高傾向が続く、外国人客の減少や土産物販売の低下につながるのでないかと懸念している」(旅館)、「低料金の店舗に客足が流れ、客数減少に歯止めがかからず先行き不安が強くなっている」(理容業)

十一月のキーワード

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から雇用の過剰感に関する声が寄せられている。

「休業や一時帰休などの労働時間の調整を行っている」(長岡・電気事業)、「2011年の受注が低位で推移しており、少しでも上向いた場合、雇用調整助成金の支給要件に該当しなくなる」(名古屋・鉄骨形材製造業)、「受注の減少が続く休業する事業所もある」(水戸・金属加工機械製造業)、「給与・賞与は現状維持するが、退職者が出ても補充を行わない」

(草津・百貨店)、「店舗の廃業が増加している」(福山・食堂・レストラン)

資金繰りの悪化

売上低迷や売掛金の回収サイトの長期化から、企業の資金繰りは厳しさを増し、年末の資金繰り不安を訴える声が多く寄せられた。また、中小企業向け融資や住宅ローンの返済を猶予する制度を盛り込んだ中小企業金融円滑化法案に関する声も寄せられている。

「先行き見通しがつかず、今後も期待が持てない。年末にかけて資金繰りが厳しさを増す」(奥州・一般事業)、「売上見通しが悪く、借入をしても返済できるかどうか不安」(東京・建築事業)、「赤字に転落し、銀行からの融資が受けにくい状況。中小企業金融円滑化法案を利用したい」(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上低迷による利益率の悪化に伴い資金繰りが悪化」(倉敷・百貨店)、「資金繰りが厳しく売上減少が続くまで続くのか不安」(中野・食堂・レストラン)

膨らむ先行き不安

年明け以降の仕事量の減少や所得・雇用情勢の悪化など、先行きに対する不安について訴える声が多く寄せられた。「政権交代による改革が、今後の企業経営や消費動向にどの

よくな影響を与えるのか、期待より不安の方が大きい」(伊丹・一般事業)、「食品など消費者に直結する様々な商品でフレ圧力が強まっている。価格競争にさらされ、経営環境は厳しさを増している」(横浜・他の食料品製造業)、「年末商戦に期待しているが、賞与のカットなど消費の低迷による景気の二番底を懸念している」(三島・その他の小売業)、「今年一番の落ち込みとなった。特に衣料品が悪く、前年比50%減の店舗もある。年末以降が非常に不安」(土浦・商店街)、「売上低迷のまま推移しており、先行きも期待できない」(銚子・他の一般飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
見通し	▲50.9	▲58.9	▲43.5	▲47.0	▲56.6	▲48.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI